

■審査委員(順不同 敬称略)

審査委員長
脇浜 紀子(京都産業大学 現代社会学部 教授)

【番組部門】

脇浜 紀子
平井 直人(ダイズ 代表取締役)
藤原 慎平(メディアプルボ プロデューサー)
出原 照久(ytv Nextry 制作センター長)
梅景 泰利(ジェイワークス 代表取締役社長)

【短編・コーナー部門/新人部門】

鹿島 我(京都光華女子大学短期大学部 教授)
岡崎 雅哉(東通企画 執行役員 大阪制作センター長)
後藤 ちあぎ(よしもとブロードエンタテインメント コンテンツ制作部長)
山崎 和博(テーク・ワン 制作本部長)
重信 好輝(クラッチ. 取締役)

■投票社【ATP関西会員社16社】

エー・ピー・シー リブラ	ダイメディア
エクスプレス	ディーレック
エスエスシステム	東通企画
MBS企画	放送映画製作所
クラッチ.	メディアプルボ
クリエイティブ・ジョーズ	よしもとブロードエンタテインメント
ジェイワークス	レジスタエクスワン
ダイズ	ytv Nextry

■投票参加校(14校)

大阪芸術大学 松澤 真木 教授 学生の皆さま	神戸市外国語大学 山本 昭宏 准教授 学生の皆さま
大阪公立大学 石田 佐恵子 教授 学生の皆さま	摂南大学 横山 孝文 准教授 学生の皆さま
関西大学 齊藤 潤一 教授 学生の皆さま	羽衣国際大学 早岡 英介 教授 学生の皆さま
京都光華女子大学短期大学部 鹿島 我 教授 学生の皆さま	佛教大学 大場 吾郎 教授 学生の皆さま
京都産業大学 脇浜 紀子 教授 学生の皆さま	専門学校 大阪ビジュアルアーツ・アカデミー 放送・映画学科の皆さま
近畿大学 杉浦 徹 教授 学生の皆さま	放送芸術学院専門学校 TV番組制作コースの皆さま
甲南大学 西村 順二 教授 学生の皆さま	大和大学 長野 真一 准教授 学生の皆さま

【受賞式】

■司会進行

秋鹿 真人(NHK大阪) 上原 美穂(テレビ大阪)

■会場

テレビ大阪 1階 エントランスホール(大阪市中央区)

■協力

テレビ大阪 テーク・ワン

ATPの情報は各SNSより発信中!!



ATP HP



Instagram



X

2026年1月28日

主催:一般社団法人 全日本テレビ番組製作社連盟

後援:大阪府/大阪市/公益財団法人 関西・大阪21世紀協会



本事業は、一般社団法人授業目的公衆送信補償金等管理協会(SARTRAS)の
共通目的基金の助成を受け実施されています。



「ATP上方番組大賞」は、関西の制作者のモチベーション向上と若手クリエイターの情熱を応援するため、2013年に創設されました。第13回は45エントリーの中から、番組部門・短編コーナー部門より優秀賞8作品、新人部門より新人賞5名を選出。

2026年1月28日、テレビ大阪エントランスホールにて受賞式を開催し、審査員特別賞 浅越ゴエ氏への贈賞、グランプリ、最優秀短編賞、最優秀新人賞を発表・贈賞しました。

ATP



EXCELLENCE AWARD

優秀賞 & グランプリ

GRAND PRIX

ドキュメンタリー

阪神淡路大震災30年特別番組 あの時から今へ ～私が撮った1.17～

製作会社: エー・ピー・シー リブラ 放送局: 朝日放送テレビ

プロデューサー 森崎 恵美(朝日放送テレビ) / 春名 雄児(エー・ピー・シー リブラ)
総合演出 繁澤 亮(エー・ピー・シー リブラ)
ディレクター 半田 祥基(エー・ピー・シー リブラ) / 人見 夏輝(エー・ピー・シー リブラ)
アーキビスト 吉水 彩(エー・ピー・シー リブラ)



番組概要

阪神淡路大震災から30年。大震災を知らない世代が増える中、まだ生まれていなかった佐野晶哉(Aえ! group)が、当時映像を記録した被災者の元を訪ね、どうやって記憶の懸け橋になっていくべきかを探った。



受賞者 コメント



「映像提供者の今」取材した佐野さん。彼の覚悟が本当に強く、心から番組と向き合って下さいました。カメラが回っていない時も、取材対象者から熱心に話を聞いていた佐野さんだからこそ引き出せた表情や言葉がありました。そして、ライブラリーチームが40名に及ぶ映像提供者に丁寧なリサーチを行い、貴重な情報を集めてくれたからこそ形になった番組です。このチームでグランプリを獲れたことがとても嬉しく、誇りに思います。

エー・ピー・シー リブラ 総合演出 繁澤 亮

審査 講評



震災から30年の節目にふさわしい意義ある作品。視聴者提供映像を中心に、当事者への丁寧な取材で構成され、記憶と証言が巧みに響き合っていました。「震災当時、どんな思いでカメラを回していたのか」という視点が新鮮で、被災スタッフならではの寄り添いも際立っていました。佐野さんの誠実な眼差しと上野さんのナレーションが重なり、震災の恐怖や混乱を確かに伝えながら、未来へ受け継ぐべき価値ある作品でした。

※一部抜粋

投票者からのコメント

■震災から30年の節目でどんな番組を作るか、各局様々な切り口がある中、視聴者の提供映像をテーマに、それぞれの人生を追うという、新しさと骨太さを備えた発想が良かった。さらに起承転結やクライマックスが描きにくいドキュメントのジャンルだが、きちんと心に残る読後感を残したのが素晴らしい。出演者、ナレーター共にタレント然とせず、真摯に企画に向き合う姿も好感が持てた。■視聴しながら涙が出ました。阪神淡路大震災があった当時は12歳だったのですが、その時の思いが蘇り、決して忘れてはいけない出来事だと改めて感じました。番組では、当時を振り返り、今その場所はどうなっているのか、その時の被災者の方々はどんな気持ちでどう向き合い乗り越えてきたのか、しっかり取材されていて、これこそがテレビが担うべき役割なのではないかと思えばせて頂きました。■阪神淡路大震災を映像におさめた人々、震災に関わった人々を、気持ちに寄り添う目線と客観的な目線の両方からバランスよく取材している良質な番組と感じられた。またリポーターに、阪神淡路大震災を体験していない世代ながらも、西宮出身の佐野晶哉さんを起用することで、他人事ではない身近な出来事として、心を持って伝えられているのが良かったと感じられた。

投票校からのコメント

■震災から30年という節目に、未経験の佐野晶哉氏が当時の記憶に迫る姿に深く共感した。自分たちと同じく震災を知らない世代の彼が、提供者への取材を通じ当事者意識を持つ過程は、記憶を繋ぐ大切さを強く感じさせた。■阪神・淡路大震災を伝える番組は、Aえ! groupの佐野晶哉さんが被災者に話を聞くことで、当時を知らない世代にも分かりやすいと感じた。映像や写真により実感でき、「誰かのために生きたい」という被災者の思いが心に残った。■地域で起こった大災害を、記録として残し続け、伝え続けることはメディアの大切な役割であり、30年の節目に、私たち震災を知らない世代にも、震災の恐ろしさ、被災した人の恐怖、悲しみを追体験させ、災害への備えがいかにか重要かを再認識させた。■震災の被災者の方が撮った映像だけに当時の状況がよりリアルに伝わってきて「絶対に風化させてはならない」と強く思わせる。当時のことを知らない人でもその恐ろしさを感じられる内容で教育的な観点でも意味がある。■出演していた佐野さんと同じく兵庫県で育ったこともあり、近い視点で見ることができ、視聴者提供映像も興味深い内容で風化させてはいけないと改めて感じた。震災から30年の節目を迎えた中で震災と向き合う被災者の方々の思いを下の世代に伝えていかなければならないと考えた。

STORY AWARD

最優秀 短編賞

BEST SHORT

情報・バラエティ

かんさい情報ネットten. あなたの味方!お役に立ちます! ~車いすの親友とイチゴ狩りに行きたい!~

製作会社:ブリッジ 放送局:読売テレビ

プロデューサー	三好 順作(読売テレビ放送) / 牛丸 善弘(ブリッジ)
ディレクター	藤光 佳孝
アシスタントプロデューサー	土江 真紀(ブリッジ)
アシスタントディレクター	小林 圭太(ブリッジ)



番組概要

ニュース番組「かんさい情報ネットten.」の木曜日に放送中の当コーナーでは、浅越ゴエさんが視聴者からのお悩みや困りごとの解決をお手伝いさせていただき、皆様のお役に立ちたいというコーナーです。



受賞者 コメント



選評して下さった方々に、御礼申し上げます。
この受賞は、現在もALSと向き合うセツコさんと、その友人2人に贈られた賞であると思っています。
3人の思い出づくりに貢献し、さらにそれを視聴者の皆様に届けられたことが、何よりの喜びです。
これからも、視聴者からの依頼ファーストで、番組を作り続けていきます。

ディレクター 藤光 佳孝

審査 講評



ALSを抱える親友の願いを、友情と福祉をテーマに前向きに描いた秀作です。依頼者の人柄や笑顔が映像に刻まれ、重くなりがちな題材を前向きに仕上げた構成は見事でした。
浅越ゴエさんの存在がコーナー全体を軽やかに支え、報道番組のコーナー企画としても“ええ塩梅”の仕上がりに。
お涙ちょうだいで過剰に演出する方法もあつたはずですが、あえて抑えたことで自然な感動が生まれ、この作品の質を一層高めています。

※一部抜粋

投票者からのコメント

■作品のすべてから、3人の友情があふれている作品となりました。また、その友情の深さとALSという難病を知って理解してもらえる、そんな見せ方が素晴らしい作品だと思いましたし、3人の個性ある人柄がみえて、人と人とのつながりと友情のすばらしさに感嘆いたしました。■病気・介護・バリアフリー施設についての「情報」を知れると共に、友人の温かさ・ありがたさといった「絆の大切さ」も思い起こさせてくれる、多彩な要素が詰まった内容。登場人物は、視聴者と何のつながりもない人たちが、浅越ゴエさんがそれをつなぐ役割を果たして、共感しながら見られるのが良かった。■誰もが共感できる強いテーマだが、引っ張られることなく、出演者らの個性が十分に引き出されていました。編集面でもBGMなど細かなこだわりを感じました。夕方ニュースの後半で心が穏やかになる、素晴らしい内容でした。■ALSの女性を囲む同級生3人の友情物語ですが、ほとんど話せないセツコさんのキャラが明るく、悲壮感はありません。自作の絵本で高校以来の交流を振り返ったりして、3人の変わらぬ関係がじんわりと伝わってくるいい作品だと思いました。■身近で小さなことでも誰かのお役に立てることを改めて気づかせてくれる、シンプルながら力強い作品でした。さり気なく寄り添う安心感かつ、内面に入り過ぎない浅越ゴエさんと番組のスタンスが絶妙でした。

投票校からのコメント

■笑いを取りつつ皆さんの友情に感動するシーンも沢山あって、両部門の中で一番心に残った。いくつもの情報が適度な演出でバランスよく盛り込まれ、情報番組の役割をしっかりと果たしつつ、人の心にも訴えかける内容でした。■高校時代の友人と病気になっても昔と変わらず楽しんでいる姿に3人の絆がよく見える。車椅子の方の「人を楽しませたい」という思いが伝わって微笑ましいシーンも多くあり、人生の大切な時間を共有してもらえる内容がとてもいい。■短いVTRの中に、ALSを患った親友と支える二人の深い友情が詰まっていた感動した。車いすでのいちご狩りや手作り絵本から、思いやりや人の繋がり、医療の温かさが強く伝わった。■ALSという難病になりながら前向きに明るく生きているセツコさん、ミカさん、ユミさんとの関係性が非常に感動しました。セツコさんや友人のお二人だけでなく、サポートする言語聴覚士と看護師の方にも焦点を当てALSに対する理解が伝わる素晴らしい内容でした。■この番組は放送当時見ていたので強く印象に残っています。その上、内容も情報番組の一つのコーナーで済ませるには勿体無いくらい深く、満足感がとても感じられました。このコーナーは視聴者の望みを一生懸命に叶えてみせるという企画で親身に寄り添って解決していくところがすごく素敵なコーナーだと思いました。

最優秀 新人賞

AWARD

BEST NEWCOMER

ドキュメンタリー

安田 哲朗(エー・ビー・シー リブラ) 魚が食べたい!～地魚さがして3000港～

放送局:BS朝日

プロデューサー 大木 由起子(BS朝日)
竹島 和彦(エー・ビー・シー リブラ)
演出 京師 直樹(エー・ビー・シー リブラ)



番組概要

日本全国に約3000ある港を、お魚大好きディレクターが突撃訪問!“地元でしか食べられない美味しい地魚”を食べ歩くドキュメンタリーバラエティー。人情ドラマあり!絶品料理あり!“一魚一会の旅”をお届けします!



受賞者 コメント



この度は、このような素晴らしい賞をいただき光栄です。ADとしてロケに帯同していた時には夢にも思わなかったタイミングでのディレクターデビューでしたが、振り返ってみると、漁師さんや島の方々にとても良くしていただき、本当に幸せな時間でした。撮影にご協力いただいた神島の方々や、何度もVTRをチェックくださった番組チームの皆さんに感謝して、今後もより良いVTRを作れるよう邁進したいと思います。

ディレクター
安田 哲朗

審査 講評



後半を引き継いだディレクターの緊張感ある展開が楽しめました。漁師が主役であるはずなのに、いつのまにか急造ディレクターの成長をみんなで見守るという視点の変化も斬新でした。漁師の人柄や地魚料理の魅力を丁寧に描写し、ディレクターデビューのチャンスを活かした誠実な演出でした。

※一部抜粋

投票者からのコメント

■演者のぐっさんが安田Dの取材に対して「(神島の)みんなに育てられているな」と言ってもらえるほど島に溶け込み、一緒に作り上げた手づくり感のあるVTRでした。■ディレクター自ら出演する番組の特性を活かし、ピンチをチャンスに変えた秀作。代打新人Dのポンコツぶりをあえて使うことで、取材対象者の人柄や優しさがより伝わってきました。安田Dにとって一生の宝物となる作品になったことでしょう。■「最優秀新人賞」という枠組み上あたり前だが、どこまでいっても「新人にしては」という評価軸が大きな割合を占める中、「新人」を軸にした構成内容を評価。「出演者のツッコミ」の使い方はYouTubeではできないシームレスな構成に繋がっていた。今後のテレビ放送が活かすべきポイントだと感じた。■今、複雑なハイブリッド企画やタレントパワーに頼る番組が多い中、超シンプルながら画外音があり、かつディレクターがバトンタッチするなどハプニングも楽しむ作り方は、とても新鮮。制作者として羨ましくさえ感じる作品でした。■番組の特性上、ディレクターの奮闘ぶりが目に見えるというアドバンテージを差し引いても、三重・神島の島民、漁師のみなさんの人柄をしっかりと描けていた。加えて、前任の先輩ディレクターの後を受けて、新米ディレクターとして奔走する安田ディレクターの人間ドキュメントとしても見ごたえがあった。



優秀賞

番組部門 関西の製作会社、製作者が製作した番組やネット配信番組が対象

※敬称略。 ※受賞作品の掲載はエントリー順となっています。

情報・バラエティ

一流の技をムダ遣い THE恐縮オファー



様々な人が抱える些細なお悩みを番組が拡大解釈!?あらゆるジャンルの権威へ恐縮すぎるオファーを出して、お悩み解決に本気で取り組んでもらう恐縮検証バラエティー!

■製作会社:ytv Nextry ■放送局:読売テレビ
■プロデューサー:中埜 勝之(読売テレビ放送) ■演出:辻 章悟(ytv Nextry) ■ディレクター:青山 裕哉(ytv Nextry) 木村 恒暉(ytv Nextry)

◆ 受賞者コメント

この度はこのような素晴らしい賞を頂き、ありがとうございます。会議、ロケ、編集…最初から最後まで常に笑いが絶えず、制作して本当に楽しかった番組が表彰されたことを嬉しく思います。

ytv Nextry チーフディレクター 青山 裕哉



◆ 審査講評

独自の発想で、楽しさとプロへの敬意を両立させた企画。一見接点のない分野と人を組み合わせ、人間味と驚きが生まれました。困りごとを一流の専門家が真剣に解決する構成は心地よく、前向きな幸福感に満ちています。突飛なアイデアを実現したスタッフの力と、協力者の心意気が光り、丁寧な関係づくりが番組の魅力を支えています。“ムダ遣い”の切り口も新鮮で、笑いも技術のすごさを再認識できる作品でした。

情報・バラエティ

世界でコンニチワ! 海を渡ったNIPPONプライド



モンゴルで豊極車が!インドネシアでたこやきが!世界で活躍する日本の意外なモノを徹底調査。現地に住む日本人調査員の取材で意外な事実も判明!海外目線を通じてニッポンの素晴らしさを再認識する番組。

■製作会社:ytv Nextry ■放送局:読売テレビ
■プロデューサー:土屋 洋之(読売テレビ放送) 藤本 知津(ytv Nextry) ■演出・ディレクター:平野 玲二(ytv Nextry)

◆ 受賞者コメント

リモートワークの浸透や国民総カメラマン時代の今だからこそ、日本から1歩も出ずに世界11カ国の取材が実現しました。物理的な距離を超えて、スタッフのみんなが現地在住の日本人と一緒に丁寧に作り上げたからこそ、評価いただける番組に繋がったと思います。

ytv Nextry 演出・ディレクター 平野 玲二



◆ 審査講評

あまり知られていない情報やお国事情を丁寧に伝え、インフォーマティブでありながらエンタメ性も兼ね備えた企画。現地在住の日本人リポーターやYouTuberとのコラボで臨場感があり、低コストで新手法を実現。MCのコメントやBGMも洗練され、情報の詰め込み方やテンポも見事。海外ネタも現地スタッフの管理で完遂され、日本文化へのプライドや思いも伝わる、知的好奇心を刺激する見応えある作品でした。

情報・バラエティ

初恋クラシック ~万博吹奏楽の夏&音楽に恋した私たち~



クラシック未経験者へ“音楽への初恋”を届ける音楽バラエティ!大阪交響楽団の生演奏とともに、個性豊かな出演者たちがクラシック音楽の魅力と熱弁&万博を目指す吹奏楽部の成長にも密着!

■製作会社:メディアプルポ ■放送局:関西テレビ
■プロデューサー:赤星 渉(メディアプルポ) ■ディレクター:山根 郁摩(メディアプルポ)

◆ 受賞者コメント

この番組制作と、今回の受賞をきっかけに、クラシック音楽の新しい入口をつくったのではないかなと、大変うれしく思います!支えてくださった出演者・スタッフの皆さまに心より感謝するとともに、これからも“心が動く瞬間”を届けられる番組づくりに挑戦していきたいです!

メディアプルポ プロデューサー 赤星 渉



◆ 審査講評

大阪交響楽団や出演者の関西ノリによる温かな空気感や、演奏時の編集の巧みさが、一体感と臨場感を生んでいます。フィギュアスケートや世界的な曲の流行など、さまざまな角度からクラシックにアプローチし、スタジオ出演者や部員の楽しげで生き生きとした表情を丁寧に描写。堅苦しさを感じさせず、親しみやすく、バラエティ感覚で音楽の魅力伝える構成も秀逸で、クラシックに親しむ新たなきっかけとなる秀作でした。

情報・バラエティ

クイズ!昭和100年 ~夏編~



昭和100年にあたる2025年。平成も令和もいったん忘れて、激動の100年を“昭和”で数えクイズでたどる番組です。昭和元年から昭和100年まで、1年につき1問。100問連続のクイズに「昭和」の記憶と笑いが交錯。

■製作会社:クリエイティブ・ジョーズ ■放送局:毎日放送
■企画:石田 ひろき(JAWS) ■プロデューサー:市村 雅道(毎日放送) 緒方 和幸(JAWS) ■演出:金津 巧(JAWS)

◆ 受賞者コメント

20代から60代までのスタッフが、演者も巻き込み、やんちゃでワンパクな昭和の気分が創りました。現場スタッフの発想を尊重して下さった市村プロデューサーをはじめ毎日放送の皆様へ感謝致します。

クリエイティブ・ジョーズ プロデューサー 緒方 和幸



◆ 審査講評

家族や仲間とワイワイ楽しめる、テンポとスピード感あふれる秀逸なクイズ企画。お風呂対決で見せた芸人2人のプロ根性、寛平さんと珠代さんのロケ、ご当地キャラや選択肢の遊びなど、関西ならではのユーモアが随所に光ります。昭和初期の映像など、丁寧に選ばれた素材が知的好奇心を刺激し、豊富なネタと大阪的なオチで笑いながら一気に視聴できました。笑いも驚き、勢いを存分に楽しめる、今年ならではの傑作でした。

優秀賞

短編・コーナー部門 関西の製作会社、製作者が製作した20分以内の短編番組やコーナー部門、ネット配信番組が対象

※敬称略。 ※受賞作品の掲載はエントリー順となっています。

ドキュメンタリー

「つながる~enn」



「人がつながり、信じ合える世界は、素晴らしい——」インターネットの隆盛で、他者を攻撃し断りが広まる今、互いのいのちを慈しみ、支え合う人生の尊さを描く、「人間賛歌」のドキュメントです。

■製作会社:MBS企画・ダイズ ■放送局:毎日放送
■プロデューサー:榛葉 健(毎日放送) ■ディレクター:亀井 弘明(MBS企画) 山崎 卓也(ダイズ)

◆ 受賞者コメント

この度は、このような賞をいただきありがとうございました。これからも、時代にとられず愚直に、「ひたむきに生きるひと」を伝える番組を、スタッフと共に制作してまいります。

MBS企画 ディレクター 亀井 弘明



◆ 審査講評

短編ながら映画のように『にんげん』を映し出す、“連ドラ”ならぬ“連ドキュ”という斬新なスタイル。事故や病の逆境、人命救助の動機などを丁寧に取材し、当事者の言葉や表情から人の温もりが伝わってくるのは取材力の賜物であろう。また各エピソードが連鎖していることで、視聴者の関心を持続させる効果も感じられた。分断が広がる今だからこそ『つながる』意味を本気で考えさせる上質なドキュメンタリー作品でした。

情報・バラエティ

news おかえり 万博がつなぐ関西の半世紀 ~人間洗濯機に奇跡のドラマ~



万博の花形、「1970年人間洗濯機」と「2025年のミライ人間洗濯機」。コンパニオン(案内係)だった祖母と孫。そして人間洗濯機の開発者。55年をつなぐ“奇跡のドラマ”を追うドキュメンタリー番組。

■製作会社:東通企画 ■放送局:朝日放送テレビ
■プロデューサー:東野 裕(朝日放送テレビ) ■ディレクター:北村 崇(東通企画)

◆ 受賞者コメント

受賞式で聞いた「関西の番組は一般の人との距離感がいい」という評価。これからも目線を合わせ、20代の頃に学んだ“ディレクター自ら撮影”を貫きます。人にグッと迫る取材が一番好きです。優秀賞ありがとうございました。

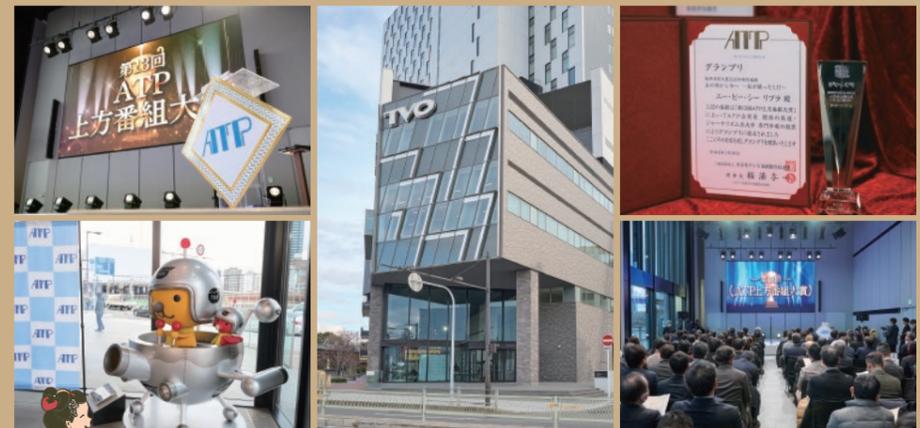
東通企画 ディレクター 北村 崇



◆ 審査講評

50年前の支えと2025年の挑戦が重なり、半世紀の点と点が一本の線になった。祖母と孫が同じ人間洗濯機のパビリオンに立ち、初代開発者が再び挑む姿は情熱と絆を映す。誇らしげな笑顔や自然なやり取りが刻まれ、キャラクターの魅力が光った。数多く放送された万博企画の中、人間洗濯機を「コンパニオン」と「商品開発」という視点で結んだ構成は秀逸で、関西の記憶を蘇らせた『世代を超えた今年ならではの作品』でした。

会場の様子



新人賞

関西で活躍する若手製作者の作品を対象に、その個人に贈られる賞

※敬称略 ※受賞作品の掲載はエントリー順となっています。

山崎 凜 (MBS企画)

情報・バラエティ

家族で戦え! クイズ!ジェネレーション万博



大阪・関西万博の見どころ等を紹介するクイズバラエティ。資料やアーカイブ映像など“記録”に残っているものから、思い出や体験談など“記憶”に残っているものまで様々な角度から万博を深掘り!

■放送局: NHK大阪放送局
■総合演出: 亀山 陽平 (MBS企画)

◆ 受賞者コメント

名誉ある賞をいただき誠にありがとうございます。大好きな万博と大好きなダイアン、そして大好きな家族が見て面白いと思う番組を作りたいという一心で精一杯取り組みました。一緒に作り上げてくださった先輩方には感謝の気持ちでいっぱいです。この賞を励みに、今後も色々なことに挑戦していきたいです。

ディレクター 山崎 凜



◆ 審査講評

豊富な映像資料を活用し、クイズVTRとスタジオ演出を融合したバランスの良い構成。新人離れした企画力と演出力を示した秀逸な作品です。家族で楽しめる安定感もさることながら随所にテロップデザインやエフェクトの使い方など独自のアイデアも光っていました。何よりも入社2年目にして特番を勝ち取る熱量に今後の可能性を強く感じました。

清水 仁義 (レジスタエックスワン)

情報・バラエティ

あれみた? 3日間で商店街にボケを仕込め! 仕込みロケグランプリ



芸人を起用し、3日間という限られた時間の中で「空堀商店街」にボケを仕込む! 大阪の下町で芸人たちはどんなボケを仕込むのか! 小道具を用意するのか、街の人を絡めるのか、自由だけに芸人の技量が試されるVTR。

■放送局: 毎日放送
■プロデューサー: 高橋 滋己 (毎日放送) ■演出: 若下 岳周 (毎日放送)

◆ 受賞者コメント

まず、このような素晴らしい賞を頂けたことを、有難く思います。制作にあたり、ロケに出演してくれた芸人3組、スタジオでVTRに面白くツッコミを入れてくれたレギュラー3組、ロケにご協力頂いた空堀商店街の皆さまなど、関わってくれたすべての人に感謝を伝えたいです。

ディレクター 清水 仁義



◆ 審査講評

まさにThis is 関西の番組! 時間と手間をかけて作り上げたことが伝わりました。通常のロケ番組では見せない芸人さんの才能を発掘できる企画が新しい。さらに若手芸人の荒削りな笑いを、協力してくれた街の人々が温かく包みこみ、広く笑えるバラエティに昇華させてくれています。

林 美紗 (ダイメディア)

情報・バラエティ

歴史探偵 飛鳥の巨石は何を語る?



奈良県の飛鳥地方には加工が施された古代の巨石が数多く残る。巨石はなぜ造られたのか? その謎が近年の発掘調査などから明らかになってきた。巨石を通して飛鳥時代、そして激動の日本で矢面に立つ天皇の姿に迫る。

■放送局: NHK大阪放送局
■プロデューサー: 竹田 晋也 (ダイメディア)

◆ 受賞者コメント

この番組で、ディレクターとして急成長させていただきました。周りからの助けもたくさんあり、制作・技術の皆さんのおかげでいただいた賞です。何より制作していて大変面白かった番組でした。これからも気づきや学びの多い番組を作っていきます。

ディレクター 林 美紗



◆ 審査講評

歴史をとりあげるとなると固いお勉強番組のイメージを持ちますが、リポーターの熱量、ナレーションの2重奏の演出など無駄がなく、興味深く見続けられました。どのVTRも完成度が高く、スタジオとのメリハリもよく、このキャリアでここまで仕上げたのは「未恐ろしい」の一言に尽きます。

橘 美緒 (よしもとブロードエンタテインメント)

情報・バラエティ

アキナのギャルしか勝たん 〜ギャルの夢を叶えよう〜



アキナとギャルが、日本を明るく変える超前向きバラエティ。憧れの島田珠代とロケをするギャルには、ある特別な思いが…。2人のギャグ連発ロケに、最後は珠代号泣の中パンティーテックスという波乱万丈の展開に

■放送局: 毎日放送
■プロデューサー: 渡邊 恒史 (よしもとブロードエンタテインメント) ■演出: 中井 英雄 (よしもとブロードエンタテインメント)

◆ 受賞者コメント

ディレクターデビューをしたこの番組で受賞できてとても嬉しいです。引き続きアキナさん、ギャルと楽しい番組ができるよう励みます★そして幅広い企画に挑戦し、ディレクターとしてもっと成長できるよう精進します。

ディレクター 橘 美緒



◆ 審査講評

ギャルがただ「島田珠代さんとロケがしたい」という軽いノリかと思わせておいて、その裏には亡き父と一緒に笑った番組が「吉本新喜劇の珠代さん」というテーマがあったとは。振り幅がしっかりと伝わる構成でとても見応えがありました。過剰にお涙頂戴を演出していないのも好感を持ちました。

審査員特別賞

浅越 ゴエ



◆ 受賞者コメント

この度は、新たに設けられた審査員特別賞という栄誉ある賞を賜り、心より光栄に存じます。「ロケ」というものは奥が深く、撮り直しても同じものが撮れるとは限らず、計算通りに行くことが正解とも限りません。だからこそ尽きることのない醍醐味があるのだと感じております。今回の受賞は、先輩方の開拓力、スタッフの皆さんの準備力、そして何よりご出演くださった方々のご協力があったのもです。これからも「らしさ」を磨きながら、挑戦を重ねてまいります。

◆ 贈賞理由

関西のコーナーVTRに多数出演され、「テレビで見ない日はない」存在として活躍してこられました。一般の方との掛け合いでは、ご自身が出すぎることなく、相手の魅力を自然に引き出し、その面白さへと昇華させる確かな技量を発揮されています。ロケリポーターの鑑とも言える手腕は、多くのディレクターを支え、関西のコーナーVTR文化にも大きく寄与されてきました。これらのご功績を称え、審査員特別賞を贈呈いたします。

※敬称略



壇上も客席も、ほんまええ空気やな。
拍手もあったかいし、
お互いをちゃんと称え合う時間になっとる!
これが上方番組大賞のええとこやな。



KAMIGATA Award ceremony Report

受賞式の様子

1

挨拶



ATP理事・
関西センター長
橘 庸介からご挨拶

2

審査員
特別賞



浅越 ゴエさんが審査員特別賞を受賞。
冒頭から会場を沸かせる、さすがの
受賞スピーチでした!

3

最優秀
新人賞



司会は、
秋鹿 真人さん(NHK大阪)
上原 美穂さん(テレビ大阪)

新人賞 発表

今年のノミネートは5名。年々、優秀な新人さんが増えて、
頼もしい限りです。



山崎 凜さん



清水 仁義さん



林 美紗さん



橘 美緒さん



審査委員 鹿島 我から最優秀新人賞を発表。
「最優秀新人賞は・・・」

最優秀新人賞 発表



最優秀新人賞は、安田 哲朗さん。
とっても爽やかなスピーチでした。



おめでとうございます!

優秀賞[短編・コーナー部門] 発表



ノミネート作品は、どれも力作揃いです。

最優秀短編賞 発表



ATP副理事長 河野 純基
から発表。
最優秀短編賞は、
「かんさい情報ネットten。」



2年続けての受賞、
おめでとうございます!

4

最優秀
短編賞



6

挨拶



ATP理事長
福浦 与一のご挨拶により
閉会いたしました。

優秀賞[番組部門] 発表



皆さま緊張のなか、にこやかに喜びのスピーチ。

グランプリ 発表



ATP理事・関西センター長
橘 庸介から発表。



見事グランプリを勝ち取ったのは、「あの時から今へ」
エー・ビー・シー リブラさん!

5

グランプリ



総評

第13回ATP上方番組大賞には、新人、短編・コーナー、番組の3部門あわせて45作品の応募が寄せられました。どの作品からも、制作者それぞれの視点や挑戦が感じられ、関西らしい表現が揃いました。

新人部門では過去最多となる18名の応募があり、次世代の担い手が着実に育ってきていることを実感しました。最優秀新人賞を受賞した安田哲朗さんの「魚が食べたい!〜地魚さがして3000港〜」は、アクシデントを前向きに受け止め、工夫として作品に生かした点が印象的でした。

短編・コーナー部門では、限られた時間の中で視聴者の心を掴む発想と現場力が光りました。最優秀短編賞「アナタの味方!お役に立ちます!〜車いすの親友とイチゴ狩りに行きたい!〜」は、人の想いに寄り添う温かさが伝わる作品でした。

番組部門では、各番組がそれぞれの個性を生かし、時代の空気をすくい取っていました。グランプリを受賞した「あの時から今〜私が撮った1.17〜」は、関西の記憶を丁寧に紡ぎ上げ、世代を超えて共感を届ける構成が高く評価されました。

今回寄せられた作品の数々から、関西の映像制作が持つ底力と、これから先へと続いていく確かな手応えを感じています。



審査委員長 脇浜 紀子



受賞式も無事終わって、みんないい顔してるなあ・・・
会場には、学生さんも50人ほど来てくれて、あちこちで話が弾んどる!
いやあ、将来が楽しみや!



第13回上方番組大賞応募作品 審査委員コメント

番組部門 ※応募用紙を基に掲載

1 番組 情報・バラエティ 放送局:テレビ大阪 製作会社:ダイズ

大阪を歩いて学ぶ!村上信五の地理の時間

●街ブラを「地理・歴史ミステリー」というくり方で、ドライブ感のある演出。歴史資料のインサートやテロップなど細部までこだわりを感じる。●村上君と八光の軽快なやり取りが楽しく、身近な大阪の地理から歴史を紐解く、とても魅力的な番組でした。欲を言えば、当時の暮らしぶりももう少し感じられる工夫があれば、さらに楽しめたと思います。●解説が軽妙な大学の先生、街口ケの達人・八光さんが大阪らしい歴史ミステリーの基礎を担い、さらにトップMCの一人・村上さんの的確かつ場を盛り上げるコメント。キャスティングとリサーチの力で出来た大阪版プラタモリ!●大阪の街を歩き『地形の違和感』の気付きから謎を生み、実際に体感しながら歴史を紐解き学んでいくスタイルは新しさを感じました。自分たちが住んでいる街の歴史をもっと知りたくなる企画ですね。スタジオMCが多い村上信五さんが大阪を街ブラする画が新鮮でした。●360度映像やCGを駆使し、知的好奇心を刺激する構成が秀逸。撮影の工夫も光るが、題材がややニッチすぎるので、「視聴者もよく行って目につく『あの場所』の謎」が入口であってほしい。

2 番組 情報・バラエティ 放送局:岡山放送 製作会社:ダイズ

見取り図の休ミトリズ

●売れっ子的見取り図のリラックスした表情が印象的。こんぴらさんの階段を実際に全部登ったところが好感が持てる。剣のくだりも好きです。●情報を詰め込みがちになるが、情報をつめこまず、ゆったりとした番組で、見取り図のゆるく楽しいやり取りが楽しく見れました。二人の素の関係性も見え「笑えるだけでなく、見ていてほっこりする」番組でした。●地元での番組ということで、リラックスした感じが観ている側にも心地よい。一日でロケをする制約からですが、目的地に着いてすぐにお店などに行かず、そこまでのプラブラ感があればもっとお二人の素が見えたのではないかと思います。●番組コンセプトの『見取り図にゆっくり休んでもらおう』という趣旨は、ゆるい空気の内ロケ映像でよく伝わっていました。もうネタ落として、もっとゆったり感と車中の様な二人の素のフリートークがあってもいいのかなと思いました。●2人の掛け合いに温かみがあり、仲の良さが自然に伝わってくる。ただ、構成やテーマにはもう少し新しさがあると、より印象に残ったかもしれない。もう一工夫の独自性に期待したいところです。

3 番組 情報・バラエティ 放送局:テレビ大阪 製作会社:レジスタエックスワン

上沼恵美子を沼らせたい

●コストコの魅力がたっぷり詰まっている。上沼さんという消費者の信頼を得ている人の発言に引き込まれる。●毒舌を交えながらも素直に驚きや感動を表現する上沼さんは「やっぱり面白い」。コストコを紹介する番組はよくあるが、上沼さんの軽快なトークで面白く、沼り人のプレゼンもあり、グルメ情報番組としても楽しめた。●さすがの上沼さんトーク!岡田さん、三船さんはじめキャスティングもよかった。トークだけでなく、美味しそうな料理インサート、アナログな沼メーターなど、とても練られた構成で面白かったです!●上沼さんのロケ番組はあまり見ない画で新鮮でした。「少々情報番組で特集しまくっているコストコだけで、果たして1時間もつのか?」と思ったが、細やかなリサーチと構成・演出、視聴者の役立つ情報も入れていて最後まで面白く見られました。●上沼×岡田の人选が妙。ベタな場所をご意見番が斬っていく形は定番でありながらも興味をそそられる。専門家も、ロケ出演や取材など立体的で飽きさせない。小道具や編集にも遊び心があり完成度は高い。

4 番組 ドキュメンタリー 配信:YouTube「【公式】日本料理アカデミー Japanese Culinary Academy」 製作会社:ダイズ

日本料理大賞2024-2025

●番組のためではない、本気の料理人のコンペティションを丁寧にYouTube公式ch向けに映像化しており、料理が目にも美しく、最後までぐっと惹きつけられる。●とにかく映像が美しく、美しいコンテンツに仕上がっている。色々決まりごとがあるだろうと思われる中、短時間でよくまとめられていた。一方で、構成がやや画一的で、それぞれが何を作ったのかが少しわかりづらく、優勝した方の料理の良さも十分には伝わりきらなかったのが惜しい。●完パケ尺が短い中、壮大な趣旨を持つ日本料理大賞をどう構成して見せるのか、非常に難しかったと思います。初見の人を引き込む為の「何か?」が明確でなかったように感じました。●YouTubeでも地上波番組のドキュメンタリー的手法とクオリティで丁寧に取材して見応えがありました。日本国内や海外からも多数応募があったのであれば、予選の厳しさやスケール感も描いた方がより深みが出て良かったのではないかと思います。●冒頭の映画のような映像美で一気に惹かれた。随所に料理人への愛、料理への思いが感じられる映像になっていた。ただ、焦点がやや広く印象が散漫になってしまっていたため、対象をもう少し絞ることでより興味をそそる番組になったのではと感じた。

5 番組 情報・バラエティ 放送局:毎日放送 製作会社:ダイズ

NMB48の#エモスト #16 恒例オープンキャンパス&新企画ショートドラマを作ろう!

●大学の魅力をNMB48が等身大レポートする様子に好感が持った。ショートドラマのメイキングは、自分も挑戦してみたいと思っている人たちに参考になったかも。●NMBのファンには楽しい番組になっていると思います。もう少し情報を詰め込んだり、画でも見せきれうようになれば良いかと思いました。●たくさんいるメンバーの個性と番組の構成をどううまく繋げるか、非常に難しい事をトレンドを取り入れて毎回制作しているのはスゴいと思います。メンバーのテンションがもう少し上がると、もっと面白くなるような気がしました。●営業案件をメイキングやドラマに上手く入れ込んでいました。メイキングを先に見せてセルライトスバのナレーションでツッコミながら盛り上げていく構成は、「どんなドラマになるのか?」という期待感が高まりました。●映像の質感やナレーションのテンポが心地よく、センスの良さが際立つ。ただ、構成やテーマに目新しさが乏しく、やや平板な印象なので、新しい切り口を希望。

6 番組 情報・バラエティ 放送局:読売テレビ 製作会社:ytv Nextry

こどもちようせんバラエティ いろいろ

●いろいろが園長先生と輪島の被災地に行く様子は脳裏に焼きつく。神戸と輪島の幼稚園をつないで子どもたちが絵を共作する、テレビだからこそ実現する企画。●復興が進まない能登を「いろいろ」を歩かせたのはよかった。小さい子供たちに伝えるモノがあったと思う。能登と神戸の子供たちをつないだのも意義ある事だと思う。●関西発の子ども番組として長く制作されている貴重な番組。様々な要素を子ども向けに構成するのは毎回が特番のようで大変だと思います。関西の子どももみんなが「いろいろ」で育つくらい続けて欲しい!●仮設住宅に住んでいる子どもマッショ隊長と元気で笑顔で遊んでいるのが印象的でした。能登と神戸の子どもたち80人の絵が出来た時は感動しました。絵が完成して番組終了ではなく、いろいろが「ゆめのまち」で遊ぶ展開がテレビの可能性と未来を感じさせました。●被災地の子どもたちのよる共作の絵が深い感動を呼ぶ。一瞬を超えて心に残る温かな交流が描かれ、子どもたちにとっては一生の思い出になったことだろう。

7 **番組** 情報・バラエティ 放送局:毎日放送 製作会社:MBS企画

大みそかだよ! 関西お天気LIVE2024

●気象キャスターの座談会が楽しい。大晦日に見るのにぴったり。●お天気だけで、90分の特番をするというのはすごいと思った。一方でスタジオのみでの天気解説はやや伝わりづらい面があった。渋谷の疑問という形が、身近な疑問として感じられるのもいいポイント。●誰もが関心のある「お天気」をテーマに大晦日に生放送の企画は、とても良かった。ただ、生放送なのに和歌山の中継が35分近く経ってからなのはもったいない気がした。各地の天カメの映像にスタジオのお天気キャスターがコメントするだけでもライブ感を出せたのでは?企画モノとしてお天気キャスターの座談会は面白かったです。●「お天気だけで90分もつのか?」と思ったが、親近感があるネタとLIVE感もあり最後まで楽しく観られました。各局のお天気キャスター座談会は、普段知られない皆さんの天気への偏愛・熱さが感じられて面白かったです。●生放送で1時間以上「お天気のみ」を放送する潔さ。関西の「お天気キャスター」を集めてトークをするなど、過去にあまりない座談会で新鮮だった。

8 **番組** 情報・バラエティ 放送局:毎日放送 製作会社:MBS企画

西乃風プランჯ

●各地で取り組まれている団地再生の実態が、わかりやすく描かれている。●番組のコンセプトがしっかりしていて、番組としては非常に見やすく、今回の茶山台団地は魅力がしっかり伝わり、丁寧に情報フォローされていた。一方で、つかみが弱く、日常感をもう少し出せばさらによかったと感じた。●とても興味深いテーマで面白かったです。固くながちなドキュメンタリー寄りの内容も、ポップに楽しみながら観ることが出来るパッケージだと思いました。個人的には上田アナのリポートも親しみがあり、よかったです。●茶山台団地が出来た頃に住んでいました(笑) 団地は高齢化で入居率が下がっている中、住人たちの工夫でV字回復している様子が丁寧に取材されていました。●構成は整っており、全体として安定感のある仕上がりがだった。一方で、新鮮さや話題性の面では、もう一歩踏み込んだ展開や、登場人物・題材の選び方に意外性が加わることで、作品の魅力がさらに際立ったのではないか。

9 **番組** 情報・バラエティ 放送局:毎日放送 製作会社:ブリッジ

土曜のあさはほめるちゃん #53 大阪・箕面編

●安定感のある街ブラ。箕面の魅力が一望できる。勝尾寺は定番のロケ地。●エンディングをアバンの的に扱うのは新しく、いい演出だと思いました。ネタのチョイスも抜群でインサートも丁寧。関西の安定した町ブラで最後まで楽しく見られました。●ロケの達人芸人・なすなかさんと互角に、それ以上に渡り合う高地さんの力もあって、チームワークよく、誰もが笑顔で観られる番組でした。土曜の朝にはピットリです。●なすなかさんと、ゲストの高地さんの仲の良さが観ていてよく伝わってきました。出演者もスタッフも、ロケ先の皆さんに丁寧に接しているんだろうなと分かる、良い空気感の番組です。ロケ番組の鏡だと思います。●爽やかなテンポと音楽が朝番組にぴったりで、心地よい仕上がりととなっている。一方で、構成やテーマの面では、新たな一工夫が加わることで、より印象に残る内容になることが期待される。

10 **番組** ドラマ 配信:FANY :D 製作会社:メディアプルポ

ワタシ限定 イケメンビュッフェ

●縦型ショートドラマへの挑戦は大切。演出はどこまでシリアスに寄せて、どこまでカリカチュア的に振るのが良いのか考えさせられた。●物語としては衝撃的な展開が用意されており、縦型ドラマとしての見ごたえを感じさせる内容だった。一方で、内容については、好みが分かれる部分もあるように思われた。●個人的にはなかなか見慣れない縦型動画ですが、ストーリーが進むにつれそんなことも気にならず、次の展開は?と思わせる作品でした。縦型ならではの力のある撮り方があるのも勉強になりました。●知名度はないが上手い俳優と、面白い脚本が揃えば、限られた予算でも魅力的なコンテンツが作れるののだと感じました。ただ、最近の縦型ショートドラマの傾向としてあえての演出なのは分かりますが、やや刺激の強い内容が気になりました。●ストーリーはシンプルながら引き込まれる展開に魅力があった。一方で、アップ映像を多用し縦型としては余白がやや少なく、演出意図が少し分かりにくく感じた。ドラマ性が縦型映像か方向性を明確にし、小道具も精度をあげてほしい。

11 **番組** ドラマ 放送局:関西テレビ 製作会社:メディアプルポ

ロンダリング

●面白いドラマで引き込まれました。東京が作る関西ドラマの違和感がなく、説教くさくならずに社会問題に人々の関心を呼び込む良質な作品。●「死者の声が聞こえる」ホラーの要素を取り入れ、現代の闇を描いた点は非常に面白く見られました。地上波連ドラ初主演で難しい役を藤原文一郎くんも名演技・演出も面白かったです。●メディアプルポとMBS企画の系列局を超えた合作というのが、関西の制作会社の将来性を感じさせるコンテンツでした。情報バラエティ番組の演出が多いディレクターが、本格的なドラマに挑戦できるのもいいですね。●映像やカット割りにこだわりが感じられ、ドラマとしてしっかり成立。ただ「事故物件」がテーマだからこそ、1話完結でも良かったのではと感じる部分もありました。声を聞いて解決するのは◎だが、メインの事件の描写がやや長く、中だるみした印象もありました。

12 **番組** ドラマ 配信:FANY :D 製作会社:MBS企画

踊るたま子

●縦長動画視聴者の裾野を広げる野心的なドラマ。ちょっとしたスキマ視聴者にも励ましを届けられる。●島田珠代さんの人柄と演技力をうまく生かした作品でした。笑いと感動をうまく伝え、中高年層には「勇気を与えられるドラマ」になっていたと思います。●珠代さんの魅力溢れるドラマで、笑ったり、呆れたり、突っ込んだり、涙が出たり…大阪色もいっぱいつまった素敵な作品でした。●再生回数を稼ぐ為に奇抜な内容の縦型ショートドラマが多い中、観ていて笑えて、最後は温かく幸せな気持ちになれる素晴らしいコンテンツでした。縦型のカット割りや構図など画作りも高いクオリティで続編も観てみたいと思いました。●縦型表現を巧みに生かし、映像の質感や画角サイズ、テロップの入れ方など全てが高水準。主演の魅力も際立っている。ただ、ストーリーに深みがやや欠けているのが惜しい。

13 **番組** 情報・バラエティ 放送局:テレビ大阪 製作会社:レジスタエックスワン

あの人のスマホをのぞき見! やすどものグルメなブックマーク

●味集中タイムのリアリティに釘付けになった。料理紹介も手間暇をかけて撮影編集されていることに好感が持た。●タレントのスマホから名店を紹介したり、集中タイムを設けたりと、新しいグルメ番組ならではの演出が施されていてよかった。若干、数居の高い店が多く並んだのが、視聴者からすると少し遠く感じた。●他人には教えたくない「おすすめ」を聞ける。そして、じっくりと味わう様子が見られる。まさに「のぞき見」の好奇心と、食への興味を満たす企画。●有名人の『行きつけ』ではなく、『行ってみたいと思っている』店に注目したコンセプトは面白いと思いました。味集中タイムは、ナジャさんも言っていましたがBGMなしで見せた方が視聴者も集中して観られたのではと思いました。●味集中×ASMRなど切り口は新鮮で、映像もおいしさが伝わる。ただ入口の「ブックマーク」が独自性に昇華しきれず、情報番組の枠を越えきれない惜しさがあった。

14 **番組** ドキュメンタリー 放送局:NHK大阪放送局 製作会社:ダイメディア

万博・史上最大の盆踊り

●万博の一大イベントの記録として有意義。さまざまな参加者の想いと巨大盆踊りのスケール感とをともにカメラに収められている。●丁寧な事前取材によって盆踊り参加者の、参加する意味がしっかり描けていた。最後の記録会の様子も、思いを込めて見ることができ、圧巻の撮影と編集でした。参加者も楽しそうな笑顔で、感動した。●長い時を受け継がれるモノには、国籍を問わず人を惹きつける力・思いがあることを再認識した。出来ればもう少し多くの参加者の姿・思いを観たかったです。●関大の加藤さんと90歳の女性や、ウクライナのピクトリアさんと亡くなった堤さんなど、世代や国籍を超えた交流が丁寧に描かれていました。出来ればウクライナの方が出演しているので、盆踊りの本来の意味でもある、『母国の方への鎮魂』に触れる場面が少しでもあればもっと深淵な内容になったのではと思いました。●取材対象の絞り込みで構成は見やすかった一方で、挑戦のハードル、緊張感が弱く達成のカタルシスに欠ける。ダンスが苦手な人が‘挑戦’障害のある人、までとはは言わないが、熱狂や高揚感がもっと欲しくなっていました。

15 **番組** 情報・バラエティ 放送局:テレビ大阪 製作会社:クラッチ

大阪43市町村を大調査! 誰も知らんキング ライバル市町村ランキング特別編 泉佐野市VS泉南市 綱引き対決

●両市の魅力が伝わった。綱引きで住民が楽しめるお祭り感を演出できている。●”人集め”しながら町の情報がしっかりと入り込んでいて、人柄もしっかりと伝わり、泉南市と泉佐野市の魅力が十二分に伝わって来たのが非常によかった。相当マスインに出たのでは…とその努力が伝わる名企画でした。●まさに関西ならではの成立し、おもしろい企画。綱引き対決を縦軸に、両市の魅力スポットも違和感なく入っている。●ライバル視している市民感情をあまりながら、綱引きのゴールにむけて見せていく流れと、人集めの中でグルメやご当地スポットなどの情報を織り込んで飽きさせずに見せていく構成は上手いなと思いました。●「ライバル対決」はありきたりながら、ローカル愛と番組冒頭の引力、綱引きのキャッチーさで唯一無二に昇華。地元×熱狂の見せ方が巧く、テレビ大阪という局の色も生きている。情報性もあり見ていて飽きなかった。

16 **番組** ドキュメンタリー 放送局:毎日放送 製作会社:チャビィ

ジャンボたかおの芸人シッター ～ききとジャンボの七五三～

●ききちゃんの可愛さが現実離れしていた。●ジャンボのやさしさが伝わり、子どもとの掛け合いがほほえましくほのぼのと見られました。そんな空気感の中、撮影が行われたと推測でき、裏でしっかりと演出されていると感じました。●ドラマなのか?現実なのか?出来れば現実であって欲しい。そんな思いが揺れながらの時間でした。人って、こんなにもやさしくて、素直な生き物だと感じました。●主人公の女の子の可愛いキャラクターと人気芸人レインボージャンボたかおの温かい雰囲気が良い伝わるコンテンツでした。最後に出てきた写真スタジオの営業案件でしょうか。流れ的にも無理なく演出されていて違和感なく楽しめました。●日常の尊さと映像美と対話。今までにあまり見たことのない作品。ジャンボのやさしさ×ききちゃんのかわいさ。ただ“できすぎな子”の印象も。親の葛藤がもう一歩あれば物語はさらに深まったのではないか。

短編・コーナー部門

※応募用紙を基に掲載

1 **短編・コーナー** 情報・バラエティ 放送局:読売テレビ 製作会社:ブリッジ

かんさい情報ネットten. あなたの味方! お役に立ちます!～銀河鉄道999のサビを正しく歌いたい!～

●依頼者の夢中で挑む姿に共感できた。子どもの“音楽は楽しむことが大事”という言葉が印象に残る、温かいVTRだった
●まず、依頼者がしゃべり上手すぎ(笑)。何者?曲もメインの視聴者層に合っていて、ちょうどいい懐メロ。完成形までの流れがちょうどいい長さに凝縮されていて、見ても心地よい。●依頼者の「どうしても大サビの英語の歌詞を唄えるようになりたい!」という熱量が伝わるVTRでした。シチュエーションも少ないロケでも飽きることなく観られたのは、出演者とディレクターの熱量だと感じました。●バカバカしい企画だな～と思いつつ、世代的にドンピシャの共感できる悩みをスッキリ解決してもらえました。本家のゴダイゴに行きがちなところ、局アナで済ませる手弁当感も関西ならでは!とはいえ、その解決策が一々腑に落ちて、なまじっか本家が出てくるよりも依頼者に寄り添っていて心地良かったです。タレントのバリューよりも中身が大切だと改めて感じました。●企画のネタとしては非常に興味深かった。英語の発音方法とボイストレーニングの観点から改善を促し、しっかり上達していたのも視聴者に納得感を与えたと思う。

2 **短編・コーナー** ドキュメンタリー 放送局:毎日放送 製作会社:MBS企画

万博のおへそ

●万博の裏方スタッフを短尺で的確に紹介。大阪の熱気と今この時代の空気感が伝わる、今年を象徴するミニ枠番組だった。●私の理解力が足りないからか、タイトルの「おへそ」の意味がわからなかった。「中心」という意味どころ…番組は、時期的にぴったり。何人紹介したかわからないが、それだけで脱帽である。●とても短いVTRですが「万博を支える人たち」の生き生きとした表情が伝わってきました。カラフルなテロップなど、万博に行きたくなるワクワク感がストレートに表現されておりました。●簡潔でわかりやすい。テーマが明瞭ですね。他にどのような人を取り上げたのか、とても気になりました。万博会場で目にする、あるいは触れ合うパビリオンのスタッフ以外にも裏でどんな人たちが支えているのか?子供たちに見せてあげたい番組だと思いました。●いずれも万博に携わる個人を紹介する企画。立場や経験が異なる個人個人がそれぞれに思いを持って万博運営に尽力していることを伝えられていると思う。

3 **短編・コーナー** 情報・バラエティ 放送局:読売テレビ 製作会社:レジスタエックスワン

言われてみたら確かに気になる!今すぐ調べて!ウンチくん 阿波踊りvsサンバ 50m走したらどっちが速い?

●斬新な疑問を映像で検証。遊び心と演出力が光り、全国ネットの一コーナーとしても印象的な短編企画だった。●個人的な好みの問題もあるが、このくらなさ、バカさ加減が従来のテレビの魅力のような気がする。ビデオ判定にまで持ち込むことで、それがさらに増幅されている。普通におもしろい。スタジオのノリもいい。●まずはテーマがとても良かったです。サンバvs阿波踊りという2コースだけの競争を、絶対必要ではないドローンを敢えて使うことで、スタジオの川島さんのツッコミが発動する展開もバラエティとして秀逸でした。●まずは、こんな調査よく思いついたな～と着眼点に感心し、視聴を進めていくうちに、その裏にある人間の本質や性(さか)を描くのが目的だったと気づき、拍手喝采!面白かったです。阿波踊りの踊り手のゴール前の差し足は絶妙でした。企画したディレクターはあの画が撮れた瞬間、「してやったり!」とガッツポーズをとったハズです(笑)●企画を聞いた瞬間は「しょーもな」と思ったが、映像を見ると笑える内容となっていた。ディレクターの工夫や力量を感じ取る情報がもう少し欲しかった。

新人部門 ※応募用紙を基に掲載

1 **新人** ドラマ 放送局:関西テレビ 製作会社:メディアプルボ

大岡 瞭輔 『旬感LIVE とれたてっ！ アナタにもふりかかろ!? 修羅場ストーリー』

●関西で再現ドラマを撮るとなると、色々制約があり、思い描いていた作品になりづらいという経験はディレクターなら誰しもあります。その中でいかに工夫して仕上げるかが腕の見せどころ。この尺の中で、最初の妻のナレーションが最後のどんでん返して回収される展開、そこに辿り着くまでの飽きさせない演出はお見事でした。●話題の地面師を題材に、限られたキャスト環境でも構成と演出で見せ切った。ドラマ経験が随所に活かされており、挑戦心が光っていました●地面師を取り上げた詐欺ネタを短い時間にうまくまとめている。短い作品に多くの人物が登場するので、一回の視聴では把握しきれない部分もあったかもしれない。個人的には天候は偶然か演出か気になった。●助手経験を生かしたドラマ演出、とても素晴らしかったです。強いて言えば、初見で見たとき最後のオチが少々分かりづらかったかなと。この若さで長尺ドラマを制作しているのは期待が高く、楽しみです。●「地面師をだます地面師」という設定は尺の制限上、やや説明が難しく感じられた。特に最後のどんでん返しはもう少し丁寧な描かれるとより分かりやすく伝わったかもしれない。

2 **新人** 情報・バラエティ 放送局:読売テレビ 製作会社:ダイズ

川越 琢示 『音楽楽√』

●番組の本質ではないと思いますが、純粋に見ていてお腹が減りました。いい食べっぷりですね～。アーティストの意外な素顔を魅力的に見せるという意味でも成功していると思います。表情の捉え方などから出演者に対するスタッフの愛情が強く感じられました。●音楽とバラエティを融合させ、見事にアーティストの素顔を引き出せていました。「食表情バトル」という独自フォーマットに挑む企画力と構成力に、センスを感じました●ミュージシャンの普段見せない顔をのぞき見できるという点では貴重な作品。時間的な制約もあったとは思いますが、グルメレポート対決という視点では、もう少し工夫の余地があったようにも感じた。●アーティストのインタビューに一工夫入れる音楽番組。クリスタル・ケイさんの人柄もよく出ておりました。欲を言うと、同じ食レポートの繰り返しに見えたので少し工夫があればいいと思いました。●ゲストであるクリスタル・ケイの表情パフォーマンスが魅力的で、「食べてリアクション」というシンプルな設定も退屈せずに見ることができた。

3 **新人** 情報・バラエティ 放送局:毎日放送 製作会社:MBS企画

榊原 朋佳 『住人十色』

●諸先輩方が積み上げてきた番組作りのノウハウをしっかりと受け継いでいっしょと思いました。老舗ならではの難しさもあると思いますが、番組の歴史の重さを正面から受け止めつつも若手ならではの瑞々しさも感じられる作品でした。●築140年の古民家リノベを通じて人と暮らしの魅力を丁寧に描写。情報を提示していく工夫と誠実な取材力に感心。最後までワクワクして見られる作品だった。●この家を見つけられたことが、まず勝因。若い夫婦にも好感がもてる。個人的には電気は?水はどこから?等も気になるところ。せっかく宿を経営しているのなら、客がいる時の様子も見たいと、それは趣旨に反するのだろうか?●ただのDIYではなく、人と人との繋がりによって完成した家というのがVTRの随所に散りばめられていました。シャイなおばあ様の「家に対する想い」を、ご夫婦が大事に言葉にして伝えていたのも良かったです。●番組タイトルを象徴するような事例に巡り合えた点が印象的だった。映像面では、印象的なカットの使い方や演者のコメントの見せ方について、構成上の工夫が加わることで、内容の魅力がさらに引き立つように感じた。

4 **新人** 情報・バラエティ 放送局:関西テレビ 製作会社:メディアプルボ

犬塚 瞭 『フットマップ 沖縄離島 石垣・小浜島SP』

●強者揃いの出演者にロケーションも綺麗なカットが約束されている石垣島。ロケする前から上りのイメージが誰しも浮かぶ中、若手Dにとってはこの上なくプレッシャーになっていたと推測されます。天気によっては大幅に内容を変更しなければならない南国ロケ。その準備にも余念はなかったと思いますが、多少のハプニングも踏まえ、一定のハードルは超えた秀作だと思います。●沖縄離島の魅力を映像美で伝え、旅情報も充実。タレント中心のロケにおける対応力と柔軟性が垣間見え、今後の活躍が楽しみです●まず、メンバーが豪華。沖縄らしさも感じられるし、4人の役割がしっかりと決まっていて、安心して見ていられる内容。もう少しゲーム性があってもよかったかもしれない。次回分を見られないのが残念。●石垣島ではしゃぐ出演者の表情や街の情報も分かりやすく描かれていた。芸人さんのコメントも楽しく表現されており、ドローン撮影や水中カメラも駆使して綺麗でアクティブなバラエティになってました。●紹介されている施設や自然は非常に魅力的で、映像からその良さが十分に伝わってきた。一方で、編集の面ではやや粗さを感じる部分もあり、特にダイビングシーンについては、表現の工夫によってさらに印象的になったのではないか。

5 **新人** 情報・バラエティ 放送局:関西テレビ 製作会社:ブリッジ

菅原 優美 『よ〜いドン！ ミルクボーイのおせっかいごはん』

●毎日のメニューを考える主婦を助ける企画ですが、今回は子供の苦手を克服してくれる展開にまで発展。出演してもらう主婦(買い物客)を仕込まないだけに、こういった出会いを逃さず活かせるようなキャスティング(料理人の腕前)とディレクターの粘り強さが大事だなと改めて感じさせてもらった。●食材を活かした料理企画に情報性と家庭的な温かさ、さらに子供の食育要素も盛り込み、現場力と引きの強さが光っていた。“運も実力のうち”と感じさせる演出でした●買い物客を捕まえ、その場で調理してしまうという発想が斬新。無関心な他の客とのコントラストも効いており、ワンポイントレッスンも良いアクセントになっていた。短時間でまとまりのある構成で、追加VTRが作品全体をより上質なものと昇華させている。●限られた環境の中で作るシェフの手さばきは完成した料理とともに見応えがありました。欲を言うと今回新たに取り入れた工夫がどこにあったのか、そこを感じ取れたらなお良かったです。●平日午前帯の企画として、基本設計がよくできていると感じる。各担当Dは「素人さんの呼びかけ」「食材チョイス」「調理撮影」と決まったことの繰り返しだと思うが、今回も三者三様で変化があり、飽きない構成であった。

6 **新人** 情報・バラエティ 放送局:関西テレビ 製作会社:メディアプルボ

山本 翔 『モモコのOH!ソレ!み~よ! 年末年始のマナー』

●マナー系の企画は季節ものでもあり、色んな番組で取り上げられますが、つつい見えてしまいますね。この番組もリタイしていました。それだけに、VTRの作りやスタジオの展開(受け方)で、オリジナリティを出す必要がありますが、この番組の中で一番盛り上がる形を理解して演出されているな~と思いました。●生活に密着したテーマをわかりやすく紹介。VTRとスタジオの連動も自然で、安定感のある構成力が伝わる演出でした。●This is 年末特番が、出演者のハプニングもあり、ワンランクの作品に仕上がっていた。内容的に地方や地域によって多少の違いがあるのでは?と少し不安も残るが、オーソリティを置くことで無難に仕上げている。●再現VTRクイズで「年末年始のマナー」を知る企画は、とても見やすい構成でした。スタジオで専門家が解説する情報もちょうどいいサイズで、スタジオメンバーの良さもよく出ておりました。●全体的にきっちりまとまっている印象。それは各回を通しての決まり事が明確だからこそか…年末年始のマナーというテーマであったが、正解はあくまで一つの考え方である、という補足があった方がより親切だったかもしれない。

7 **新人** 情報・バラエティ 放送局:朝日放送テレビ 製作会社:エー・ピー・シー リブラ

半田 祥基 『新婚さんいらっしゃい! 追突事故の被害者と加害者が結婚!?!』

●新婚さんの出会いエピソード自体がかなり特殊で興味深いものではありませんが、番組内容から想像もつかないテイストのエピソードVTR。結婚しているという結果を知らなければ、かなり怖い内容で、緊張と緩和から生まれる笑い。エピソードVとして完結せず、スタジオのトークへの興味もしっかり煽れている秀逸なVTRだと思います。●強烈なエピソードを事件風の再現VTRでユーモアたっぷりに演出。番組の伝統に新風を吹き込んだ挑戦心が光った印象的な回でした。●まず、ネタが強い!それだけで見てみたいと思える。最初にVTRで振り返るのも有り。視聴者が知りたい情報を少しずつ見せていくテクニックも巧み。個人的には、親友への取材は女性のほうがよかったかな。●一見マイナスで始まる2人の馴れ初めを、ご本人の再現VTRや友達証言などを交えて見せてい、観る人をどんどん引き込んでいきました。丁寧に事前取材をして構成・演出をしていたから出来たのだと思います。

8 **新人** 情報・バラエティ 放送局:読売テレビ 製作会社:ジェイワークス

坂 稜輔 『かんさい情報ネットten. アナタの味方!お役に立ちます!』

●王道の企画ですが、最後まで目が離せませんでした。自転車に乗れない子供が集まったはずなのに、練習前に乗れてしまう子がいたり、最後までなかなか乗れない子がいたり。いろんな結末を想定してロケに臨んでいたと思いますが、なんとと言っても相手が小学生だけに現場の雰囲気作りには相当気を使ったのではないのでしょうか。展開としても、それぞれの成長過程を見せながら飽きさせない編集はうまいな~と思いました。●子供の真剣な表情と親の応援を丁寧に描写。予測不能な自由な行動を含め、子供の魅力を引き出すことに成功した温かい作品でした●自転車で乗りたいという願いを叶える試み自体はよく目にするが、3人が一緒に挑戦するという設定は新鮮に感じられた。それぞれ異なる「乗れない」理由を持つ3人を組み合わせることで差別化を図ろうとした意図も伝わってくる。●「自転車で乗れるようになりたい」というこれまで多くある企画ではある。しかし今回は、3人の関係性のない子どもたちが、同じ目標をもち、どんどん仲良くなっていく姿を描いており、他にはない形でより楽しく観れました。

9 **新人** 情報・バラエティ 放送局:びわ湖放送 製作会社:ジェイワークス

岩本 一美 『街ぶらバラエティ 宮川大輔のそれ知りたいヤツや~ん!』

●旅は「どこへ行くか」より「誰と行くか」。この座組が組めた時点で、この番組は楽しい旅になることが確定!と言い切っても良いくらい、息がピッタリ合ってますね。もちろん、本編中のトークにもあるように、カメラが回っていない時からその空気作りは始まっていたのだと思いますが、どこまでも続く旅になりそうだな~と見ているほうもワクワクする番組でした。●車内のやりとりを主軸に編集力が問われる作品。タレントパワーを活かし、ロケの面白さを最大限に引き出す構成判断が冴えていたと思います●1時間番組からだろうか、オープニングから少し間延びして感じた。全体を通じて、人数が多いのと内容的に『ガキ使』をイメージした。メンバーの役割が決まっていないのが、ゆるさをおもしろくしている。●宮川大輔さんをはじめ、人々とのふれあいが良く出ておりました。この回は新企画と謳ってましたので、行き当たりばったりロケというのもよく伝わりました。ただ、少々交通ルールは気になりました(車道を横切るなど)●構成は簡潔で、編集にも無駄がなく、全体としてバランスの取れた仕上がりだった。一方で、演出や表現の面では、ディレクターならではの工夫がさらに感じられる場面があれば、より印象に残る作品になったのではないか。

10 **新人** ドキュメンタリー 放送局:朝日放送テレビ 製作会社:オージャイト

金銅 奈那世 『万博がつなぐ関西の半世紀 第6回「漫才学校繁盛記」』

●恥ずかしながら、半世紀以上前にお笑い学校なるものがあったことを知りませんでした。歴史的価値のある古い映像と、現代のお笑い界を支える裾の広さが共に印象的に映し出されてきました。夢を追いかける今昔の漫才師の卵たちと近い年代のディレクターならではの、等身大の描き方が新鮮でした。●貴重映像を活かし、関西の笑いの歴史を掘り起こした今年ならではの企画。1本で2本見たような、得した気分になれる作品。取材力と構成力が冴えていました。●今年しか成立しない番組。過去の映像は、もう少し説明があるとより入りやすかったかもしれない。「明蝶」が誰もかわらないので、なかなか入っていけない部分もあった。現在編は、もう少ししっかりネタを見たかった。●若手Dが半世紀前の漫才学校の映像を織り交ぜてた特番に挑んだのはすごいと思います。漫才師への密着は見応えありました。●タイトルである万博とお笑いの繋がりが見えにくかった。せっかく、大阪のお笑い半世紀を描くなら、「変わらないもの」「変わったもの」や「大阪がなぜ笑いなのか」といった視点をもう少し掘り下げてもよかったのかもしれない。

11 **新人** 情報・バラエティ 放送局:読売テレビ 製作会社:レジスタエックスワン

岸川 将太 『言われてみたら確かに気になる!今すぐ調べて!ウンチクん エビを食べた時のベタな感想「プリプリ」誰が言い出したの?』

●目のつけ所が面白いなと思いました。抜けがどうなるのかな?と最後まで引っ張られました。この尺で完結できる内容という意味では入口から出口まで見やすく楽しめましたが、スタジオのふりが大きかっただけに、企業が残した資料を見返すだけの展開になってしまったのは惜しいと思いました。●「プリプリ」というベタ感想の起源に迫る斬新な切り口。短尺ながら取材結果も納得感があり、企画の妙が際立った一作でした●目の付け所がおもしろい。タイトル通り、バカらしいネタを出演者がうまくネタに仕上げている。ただ、個人的には「正解」までに、硬軟取り交ぜて、もう少し遊んでほしかった。入社2年目で初の作品。今後が楽しみ。●まず視点面白いと思いました。リサーチしたら構成は決まるVTRなので、プリプリの名付け親までたどり着いたらより良いなと思いましたが、テンポもよく、知りたい部分は十分に解消され、見やすい演出でした。●「オノマトペ」の源流を探るという視点は新鮮。ただ、このVTRだけでは発祥を言い切るには説得力が足りない印象。

12 **新人** 情報・バラエティ 放送局:読売テレビ 製作会社:レジスタエックスワン

増田 恒輝 『発見!仰天!!プレミアもん!!! 土曜はダメよ! クイズ!赤の他人は誰だ!?!』

●よくできた企画だなとつくづく感心しました。正解発表のあとの涙の別れに、不覚にも鼻づ柱がツンとなりました。これくらいの尺を見ないと、最後のシーンに感情移入できないんだと納得。普通なら正解発表で盛り上がりつつ終わるところを、本来裏側である赤の他人の別れのシーンがあることにより、ただのクイズ企画とは一線を画す作品になっていたと思います。●人気コーナーの5年ぶり新作を見事に継承。家族描写でホロっとさせた場面から、作り手の誠実さと見えない部分への向き合い方が伝わってきた●企画がおもしろい。昔風に言うなら「お茶の間で家族が揃って視聴できる内容」。家族の個性に依るところも多いと思うが、分からない程度に演出をかけている(だろう)ところが絶妙。●土グメのヒット企画。スタジオトークのワクワク感もあり、一気に観たくなりました。私もコーナーのファンゆえ、贅沢を言うと今回新たに取り入れた工夫はどこかな?と思いました。そこを感じ取れたらなお良かったです。●恒例の企画だが、各シーンを丁寧に収録していた印象。おそらく、答えが分かってしまうシーンのカット作業もあったと想像される。

13 **新人** 情報・バラエティ 放送局:BSよしもと 製作会社:よしもとブロードエンタテインメント

山口 香奈 『高校野球応援特番 激闘のウラ側、全部見せます!~記者たちの甲子園ノート~』

●記事に書けない逸話も含めて、現場で取材している記者のエピソードの数々はとても興味深く、引き込まれました。試合の映像がインサートされないまま、果たしてこの尺が持つのかな?と思いながら視聴を進めていましたが、ある意味映像を凌駕するほど濃い内容の裏話ばかりでした。野球に詳しいプラマヨのお二人の前のめりの相性も相まって、高校野球をテーマにしたトークバラエティとして、ちゃんと成立していると思いました。●記者のノートを題材に、あえてVTRを使わない構成がMCの人情味を引き出し、世代を超えて楽しめる応援番組に仕上がっていた。●プレゼンするのは新聞記者2名のみ。球児との取材秘話を、写真や新聞記事だけで紹介し、ワイプやテロップ、映像などイマドキ当たり前の演出をそぎ落としたことで、逆に番組の色が増していると思いました。●甲子園ファンにはたまらない企画だと思う。朝日新聞社の記者目線で構成されたが、確かに記者だからこそ知り得る裏話が豊富に紹介され、企画主旨に沿いつつ内容の濃い番組になっていると思う。